令和６年度第１回北海道立旭川美術館協議会議事録

北海道立旭川美術館協議会は、学識経験者、学校教育及び社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、公募の委員で構成され、毎年度２回（通常は７月と２月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べることができる諮問機関です。

１　日　　時　　令和６年７月 23 日（火）　10 時 00 分～12 時 00 分
２　場　　所　　北海道立旭川美術館講堂
３　出席者数　　協議会委員 12 名中７名出席、美術館職員７名
４　出席委員　　伊東義晃（会長）、大石朋生（副会長）、阿部ひとみ、奥野由貴代、
　　岸本恵理加、沓澤章俊、宮田琴羽 ＜敬称略 50 音順＞
５　議　　事
　(1) 令和５年度（2023 年度）事業実施状況について
　(2) 令和５年度（2023 年度）道立美術館評価について
　(3) 令和６年度（2024 年度）事業運営計画について
　(4) 博物館法の改正と道・旭川美術館の取り組みについて

【議事録（抄）】

委員の互選による会長及び副会長の選任後、会長の議事進行により、５の議事について、各委員に諮った。

■ 事務局より令和５年度の展覧会や教育普及活動等の実施状況と美術館評価を報告し、令和６年度に計画している事業について説明した。また、令和５年４月に施行された改正博物館法と美術館に対して新たに期待される役割について、当館の取組とともに説明した。

■ 事務局からの報告、説明に対して、当館に期待することや要望について意見や感想等をいただいた。

○ SNS が開設されているが、出入口などに QR コードが掲示されていると普及活動につながるのではないか。
［事務局回答］
前向きに検討させていただく。

○ 年次計画の中で「利用者に愛される美術館づくりに努める」とあるが、利用者は、年代や住んでいる場所など、どこに重点を置いているのか。
［事務局回答］
あらゆる世代の方が幅広く来ていただける施設を目指している。

○ 旭川美術館は、規模は大きくはないがアットホームさを感じる。

○ 文学の色々なジャンルの冊子でも表紙は地元の画家の作品も多く使用されており、

関わりがある。

○ 最近の傾向は、社会課題に応じた現代アート、ポップアートやデジタルアート等に人気がある。今後の展覧会に生かしてくださると、楽しめる方が増えると思う。

○ コロナ禍を境にデジタル化やリモートが増えて、遠隔地にいるとありがたい。リモートミュージアムもこれから進化していくことを期待している。
チラシ１枚では、展示されている作品の感動は伝わりづらいので、デジタル化の進化にも期待したい。

○ 展覧会の内容によって観覧者数に差が大きくある。展示室に入ると非常に良い作品がたくさんある。多くの人に来ていただくために何ができるのか、宣伝する方法を探って行かなければならない。
デジタルアーカイブについては知らなかった。こういったことを広く伝えて、美術館が色々取り組んでいることを知ってもらうことが必要。

○ 今回の「日本の洋画 150 年の輝き」展の岸田劉生のように、テーマをまとまりで見せていくのは、アピール力があり、見応えがある。ストーリーと塊が重要なキーワードであり、今後も実践してほしい。

○ 多くはないが、インバウンドを狙っていくことも大事。海外の旅行者が１人２人と足を運び出すと、口コミで連なってくることは色々な事業でも見て取れるので、そのあたりが鍵になる。